

- I. 日 時：平成26年5月19日（月）午後5時00分～午後7時10分
- II. 場 所：アルカディア市ヶ谷 私学会館 会議室（6F）
- III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、東村委員、田辺委員、白崎委員、辻村委員、井上委員、松本委員、齋藤アドバイザー、青木アドバイザー、吉永アドバイザー、名原アドバイザー、滝島アドバイザー（代理）、木下アドバイザー、和田アドバイザー、井端事務局長、森下、坂下（記録）
- IV. 資 料： 1. 平成26年度事業計画書  
2. 平成25年度産学連携推進プロジェクト委員会活動報告  
3. 平成26年度産学連携推進プロジェクト委員会の活動計画  
① 平成26年度「大学教員の企業現場研修」について（事務局メモ）  
② 平成26年度「社会スタディの場」について（事務局メモ）

V. 検討内容

1. 平成25年度産学連携推進プロジェクト委員会事業報告について

事務局より平成26年度の事業計画の説明があった後、平成25年度活動報告資料に基づき「産学連携人材ニーズ交流会」、「大学教員の企業現場研修」、「社会スタディの場」の実施結果報告があった。報告後、委員から以下のような意見がよせられた。

<主な意見>

- (1) 産学連携人材ニーズ交流会について
- ① 基調講演の内容があまり興味をひかなくて途中で退席された先生もいた。人選が重要であると思う。
  - ② 企業の若手社員（4名）の発表はとてもよかった。
  - ③ 企業代表の若手社員の方は3名が女性であったが、基調講演や有識者などは男性ばかりで偏りすぎている。次回は必ず女性講演者を加えるべきである。
- (2) 大学教員の企業現場研修について
- ① 大学のキャリアセンターの中に教員がいたり、インターンシップ担当があったりし、一般教員はどのように現場研修に携わったら良いのかという質問に対し以下3点の意見がよせられた。
    - ・教員の多くが現場（企業の実態）を知らずに教えているケースが多い。
    - ・社会的に役立つ人材をつくるための教育が求められていることがわからない先生も多い。従って企業の第一線を知る（学ぶ）必要があり、最終的にはFDに役立てる。
    - ・キャリアセンター内の役割分担ではなく、もっと広い意味合いで教員全員が同じ気持ちを持つことが大切である。
  - ② 企業現場研修に過去2回出席したが大変ためになった。どのように学内で広めるかが重要である。学部で実施している高校訪問に加え企業訪問も提言し、賛同した先生に参加いただき盛り上がりつつある。
  - ③ 情報工学科の授業カリキュラムはしつつ、組みやすいカリキュラムを設計しているケースが多く企業のカリキュラムと違いがあると感じている。企業からアドバイスをしてもらう必要もあると思う。
  - ④ 企業（アドバイザー）の意見として現場研修実施後の効果が知りたい。効果測定ができると更に良い。
- (3) 社会スタディの場について
- ① 優秀証受賞者12名については、氏名、大学名（学部）、学年を私情協のWebに載せるべきである。情報発信をもっと積極的にすべき。
  - ② 優秀証受賞者の氏名、大学名を教えて欲しい。

2. 平成26年度産学連携推進プロジェクト委員会の活動計画について

平成 26 年度の事業計画及び委員会活動について事務局より説明があった。主なテーマは①「第 6 回産学連携人材ニーズ交流会」、②「大学教員の企業現場研修」、③「第 2 回社会スタディの場」の 3 点である。

人材ニーズ交流会の目的は大学側と企業側の人材育成の意識合わせであるが、情報系のみでなく幅広く進めていく時期がきた。文系、理系と分けず社会科学系など分野横断的な取り組みにしていく必要がある。場合によって情報系は分科会にするなど 1 年かけて検討し、実質平成 27 年度から新たな枠組みでスタートしたい。高度情報通信人材育成支援センター（CeFIL）とも情報交流し、文系分野などにも広げること考える時期が来た。

(1) 「大学教員の企業現場研修」について（事務局より報告）

- ① 本年度は 9 月、2、3 月で計 4 回の現場研修を企画する。
- ② 関西地区における開催要望に応えるため西日本電信電話株式会社と調整するも協力を得られなかったが、引き続きパナソニック株式会社なども検討していく。
- ③ 日本電気株式会社、株式会社内田洋行、株式会社日立製作所は 2 月開催、富士通株式会社は 9 月開催で協力いただける。

(2) 「社会スタディの場」について（事務局より報告）

初の試みであったが反響も大きく、「学生の主体性を引き出し、未来に向けて学びの目標を考えさせる場として非常に有益である」ことが認識され継続実施する。しかし、昨年度は有識者と会話時間が少なかった、グループディスカッションの時間が短すぎた、質問に答える時間も少なかった等の反省も多かった。

<主な意見>

- ① 参加学生には小論文など事前に準備させたこともあり、熱心なグループディスカッションができたと思う。あの活気ある雰囲気を大学教員の方々にも見せたいくらいである。
- ② 次回は大学の教員にも案内し積極的に集めるべきである。
- ③ 優秀証と修了証をカメラで撮り各大学に送付しもっと広報・宣伝すべきと思う。
- ④ グローバル化の前段として学生に大学間を越えてコミュニケーションさせる機会が大事である。
- ⑤ 理事長・学長会議においてビデオなどで PR しても効果があると思う。
- ⑥ 学生から講演者の希望をとるのも良いのでは。参加学生は講師についてあまり知らない方も多い。
- ⑦ 優秀証受賞者は学長宛に知らせ、学内公示などで PR し盛り上げることも良いと思う。
- ⑧ 講師の人数を減らしてでも質疑の時間をとるべきである。
- ⑨ クリッカーの活用ができていない。もっと事前に設問など準備し有効活用すべきである。
- ⑩ 講師の候補としては必ずしも有識者でなく社会で活躍している講師も良い。また、女性講師の講演も検討すべきである。
- ⑪ まさに「社会スタディの場」の参加者は文系・理系の枠を越えている。但し、ICT 活用は共通。
- ⑫ 分野横断型で幅広い知識を身につけることは重要であるが、機械系では専門分野の基礎知識だけはきちっと押さえて勉強する必要がある。基礎だけの勉強は面白くないがそこから自分の興味をどうつなげるかが大事である。

(3) 第 6 回産学連携人材ニーズ交流会について

<主な意見>

- ① 八戸学院大学の太谷先生の話は地域に密着し成果を上げとても良かった。また、太谷先生は文系出身であるがイノベーションに関与した取り組み事例等の話がとても有意義であった。
- ② 昨年度の講演は男性ばかりであったが、本年度の基調講演では海外の講師や女性講師を是非検討して欲しい。

### 3. 次回産学連携推進プロジェクト委員会の開催日

平成 26 年 6 月 23 日（月）17:00～19:00